

研究分野のキーワード：発達障害，自閉症，プレイセラピー，グループプレイセラピー

研究紹介

私は、愛知教育大学の附属施設である発達支援相談室の実践活動において、発達に問題を抱える子どもとその保護者への支援をテーマに研究を行っています。この発達支援相談室では、自閉症や知的障害、学習障害などの障害のある子ども達が抱える様々な問題に対して、プレイセラピーを中心とした療育相談を行っています。プレイセラピーとは遊戯療法とも言いますが、心理療法のひとつのやり方で、「遊び」を通して子どもと関わり、それによって子どもの心身や行動のあり方に好ましい変化や成長をもたらすことをめざすものです。

これまでの研究活動において、私は自閉症児のコミュニケーション能力の発達を検討してきました。自閉症とは発達障害の一つで、人と関わることや自分の気持ちを伝えたり、他者の気持ちを理解することがとても苦手とされています。しかし、セラピーを行っていく中で、自閉症児からセラピストに要求を示したり、またセラピストからの関わりを受け入れるなどの変化が見られます。こうした実践から、自閉症児が他者の存在に気づき、その他者の意図を理解していく過程を明らかにしてきました。自閉症における対人関係の問題は自閉症の中核的特性であり、彼らの他者理解の発達過程を明らかにすることは発達援助を行っていく上で必要不可欠です。自閉症児における他者理解の発達プロセスについてより実証的資料を積み重ねた上で検討を行い、自閉症理解についての新たな視点を提示することが今後の研究の目標です。

また、発達支援相談室では、自閉症の他にもアスペルガー症候群やADHDなど、幼稚園や学校など集団場面での難しさを抱える子どもたちに対して、「集団のルールを守る」「友達とのかかわり方を学ぶ」「集団の中で自己表現をする」ということを目標に、グループでのプレイセラピーを実施しています。グループプレイセラピーの実践からは、セラピーの場が子ども達にとって安心できる居場所であり、子どもに寄り添うセラピストが存在するということや、子ども達にとって他者から褒められる体験が非常に重要であるということが明らかになっています。この臨床実践をベースに、発達障害児へのグループプレイセラピーを適用した対人相互交渉促進に関する研究を進めていきたいと考えています。